

16. へき地在住高齢者における, A/H3N2 亜型株変更後のインフルエンザワクチン接種後抗体価に影響する因子の検討

松下雅英¹⁾³⁾, 武内世生²⁾, 上原良雄²⁾, 松元かおり²⁾, 北村聡子²⁾, 浅羽宏一²⁾,
瀬尾宏美²⁾, 阿波谷敏英³⁾

¹⁾高知大学医学部・高知市土佐山へき地診療所, ²⁾高知大学医学部総合診療部,

³⁾高知大学医学部家庭医療学講座

【背景】インフルエンザワクチンは、インフルエンザ感染症と関係した超過罹患や超過死亡を最小限に抑えるために不可欠であり、世界保健機構は 65 歳以上の全高齢者へのワクチン接種を推奨している。しかし、ワクチン接種後の抗体反応は、年齢、基礎疾患、インフルエンザウイルスの流行歴、過去のワクチン接種歴等の影響を受ける **【目的】**A/H3N2 亜型ワクチン株変更後のワクチン接種 4 週間後抗体価に影響する因子を明らかにすること **【研究デザイン】**前向き研究 **【解析対象】**2005/06 シーズン及び A/H3N2 亜型ワクチン株が変更された 2006/07 シーズンに連続してワクチン接種前後の hemagglutination inhibition (以下、HI) 抗体価を測定したへき地在住高齢者 113 名 (男性 46 名、女性 67 名、平均年齢±標準偏差 75.7±7.7 歳) **【評価項目】**幾何平均抗体価 (HI 抗体価の相乗平均値) と Seroprotection rate (感染防御に必要な 40 倍以上の HI 抗体価を獲得した人の割合) **【結果】**幾何平均抗体価は、2005/06 及び 2006/07 シーズンの接種 4 週間後が 66.1, 25.2 で、Seroprotection rate は、それぞれ 66.7%, 52.1% であった。多変量解析の結果、2006/07 シーズンの接種 4 週間後抗体価に対し当該年度の接種前抗体価が唯一影響していた。また、A/H3N2 亜型ワクチン株変更後、対象者の 65.5% において変更ワクチン株に対するワクチン接種前抗体価が 10 倍以下と低く、この群においてはワクチン 1 回接種 4 週間後の Seroprotection rate が 33.8% と低かった。よって、ワクチン株が変更された場合、高齢者に対してはブースター効果を期待してワクチンを 2 回接種する事も考慮すべきと考えられた